

Q33. 球磨川水系における流量や水質の変化を把握するために、どのような調査を行っているのでしょうか。

- 球磨川水系では、国土交通省が管理する雨量観測所（29箇所）、水位観測所（4箇所）及び水位流量観測所（12箇所）において、水文観測を実施しています。



図 球磨川水系における国土交通省管理の水文観測所位置図

- 雨量、水位については、各観測所に設置された観測機器にて、観測しデータを記録・保存しております。また、流量については、河川の流速と断面積を元に算出しています。なお、上記データについては、[「水文水質データベース」](#)で公表しています。
- 水質については、公共用水域の水質監視地点として15地点で毎月1回採水および分析を行っており、分析項目、頻度は、水質監視地点毎に設定し、結果を[「水文水質データベース」](#)で公表しています。



図 球磨川水系における水質調査地点位置図

- また、15 地点のうち 1 地点においては、有明海・八代海に流入する球磨川を含む 9 つの一級河川（球磨川、緑川、白川、菊池川、矢部川、筑後川、嘉瀬川、六角川、本明川）の平常時および洪水時における河川水質の実態把握のため、平常時と洪水時の採水および分析についても行っており、[「有明海・八代海流入一級河川水質等データ」](#)（九州地方整備局ホームページ内）にて結果を掲載しています。
- さらに、ダイオキシン類の調査を年 1 回 1 地点で、ゴミの量や水のおいなど感覚的な水質指標を用いた調査を実施しています。
- 上記、平常時調査に加え、洪水時や濁水時などには必要に応じて、追加で水文・水質観測を実施しています。

- なお、九州地方一級河川の水質現況をとりまとめた結果は、[「一級河川の水文・水質状況について」](#)（九州地方整備局ホームページ内）にて掲載しています。

- また、川辺川の流水型ダム環境影響評価に関連して実施している調査については、ダム周辺地域の環境の状況を把握することを目的に調査を実施しています。
調査の実施状況及び調査結果については、[「川辺川の流水型ダムに関する環境影響評価レポート」](#)に記載しています。